学校法人 兵庫医科大学 広報誌

兵医広報

2020
AUTUMN
vol.251

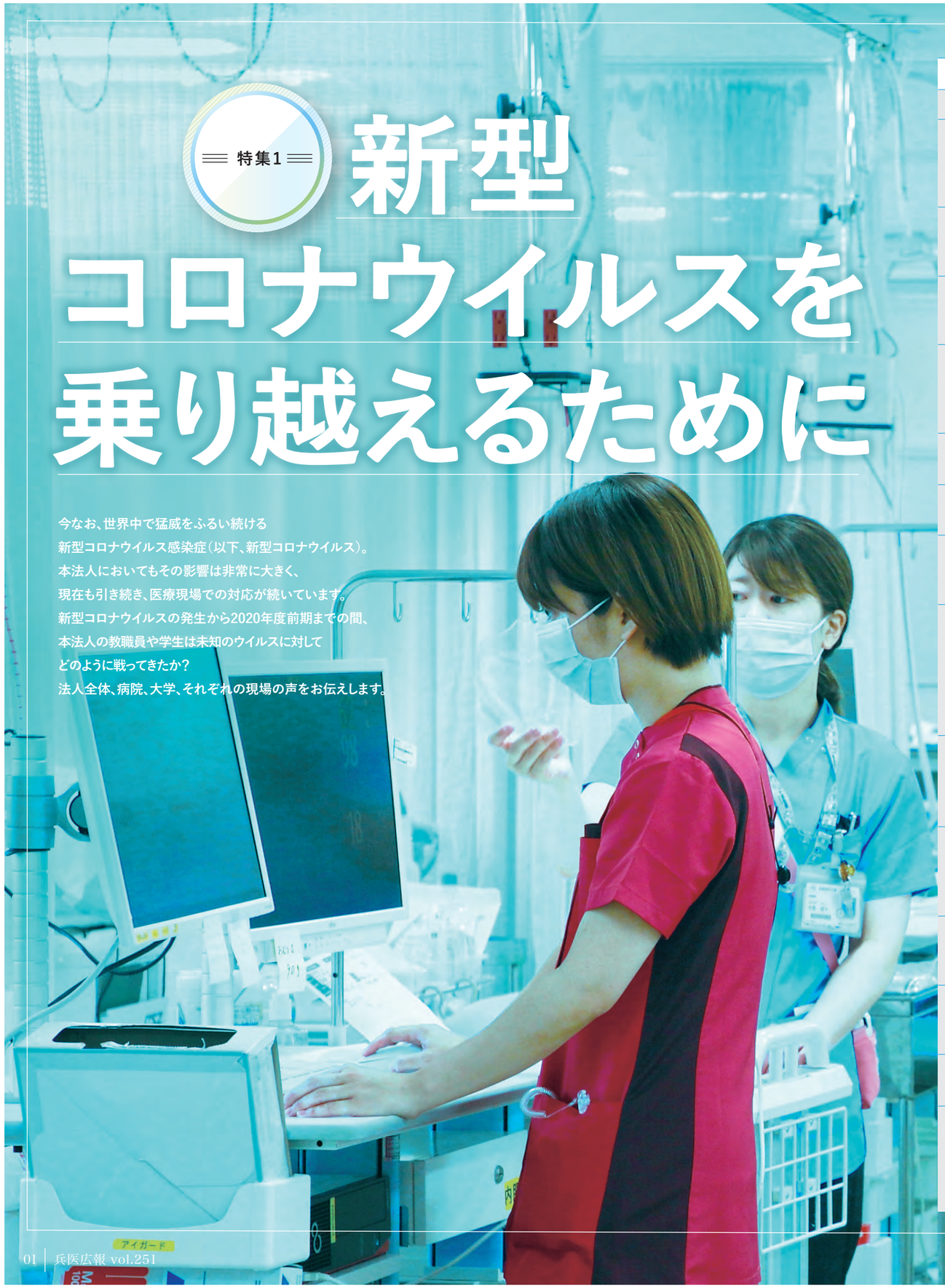
特集1

新型コロナウイルスを乗り越えるために

特集1

新型コロナウイルスを乗り越えるために

今なお、世界中で猛威をふるい続ける
新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス）。
本法人においてもその影響は非常に大きく、
現在も引き続き、医療現場での対応が続いています。
新型コロナウイルスの発生から2020年度前期までの間、
本法人の教職員や学生は未知のウイルスに対して
どのように戦ってきたか？
法人全体、病院、大学、それぞれの現場の声をお伝えします。



	日本・世界の情勢	本法人の動き
2019年12月	中国 湖北省の武漢市で原因不明の肺炎クラスターが確認される	
2020年1月	肺炎の原因を新型コロナウイルスと特定 国内で感染者、無症状病原体保有者を初確認 **日本政府が「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置** **世界保健機関（WHO）が緊急事態宣言を発表**	1/22 新型コロナウイルスを疑う外来患者の対応フローチャートVer.1を作成、病院長を中心とする会議を毎週開催することが決定 1/27 教職員と学生に中国湖北省への渡航禁止を通知し、新型コロナウイルス感染症患者に接触した場合の対応を通知
2月初旬	**国内で「指定感染症」政令を施行** **クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス」号での初の感染者を確認** 日本国籍の感染者の死亡を初確認	2/3 教職員と学生に中国・香港・マカオへの渡航禁止を通知
2月中旬	国内で院内感染を初確認 **日本政府が「専門家会議」設置**	2/12 クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス」号へDMAT医師1名を派遣 **兵庫医科大学病院「第1回 新型コロナウイルス感染症に対する今後の方針に関わる打ち合わせ」を開催**
2月下旬	**クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス」号で死亡者を確認、下船者の感染を確認** **日本政府が「クラスター対策班」を設置**、「大規模なスポーツ、文化イベント」の自粛を要請、全小中高校に3月2日からの休校を要請	2/20 **感染制御部が「第1回阪神南圏域新型コロナ会議」に参加** 2/21 疑い症例に対する受付や診察等の対応を決定、院内に通知 2/26-27 発熱時や呼吸器症状がある場合の出勤禁止を教職員・委託業者へ通知
3月上旬	国内の感染者数が1000人を突破 **「新型インフルエンザ対策の特別措置法の改正案」を閣議決定**	3/3 本院の診療以外で感染者に接触した場合、「新型コロナウイルス感染症に関する接触報告書（当院診療以外）」を提出するよう通知
3月中旬	**WHOが新型コロナウイルスの流行状況を「パンデミック」と発表** 大阪府・兵庫県ともに感染者数が100人を突破	3/13 **帰国者・接触者外来の開設やPCR検査前の重症肺炎患者の受け入れを決定**
3月下旬	**東京オリンピック2020大会の1年程度延期を発表** 日本政府が「学校再開ガイドライン」を公表 世界累計感染者数が70万人を突破	3/23 全世界への渡航自粛を職員に通知 3/24 **感染制御部が「第1回兵庫県新型コロナウイルス対策協議会」に参加** 3/26 感染制御部が「第2回阪神南圏域新型コロナ会議」に参加
4月上旬	日本医師会が「医療危機的状況宣言」を発表 世界累計感染者数が120万人を突破 **日本政府が兵庫県、大阪府、東京都など7都道府県に「緊急事態宣言」を発表** 世界累計死亡者数が8万人を突破	4/3 **PCR 陽性の重症患者を兵庫医科大学病院で対応することが決定** 学外者の本学施設内への立入制限を決定・通知 4/6 感染制御部が「第2回兵庫県新型コロナウイルス対策協議会」に参加 4/8 **学校法人兵庫医科大学「第1回 新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を開催** 4/9 許可証のない方の面会禁止を決定
4月中旬	**日本政府が全国に「非常事態宣言」を発表** 国内の感染者数が1万人を突破、国内の死亡者数が200人を突破 世界累計死亡者数が16万人を突破、 世界累計感染者数が240万人を突破	4/14 兵庫県の方針により、受け入れ病床を5床に増床することを決定 4/16 病院職員全員のサージカルマスク着用を義務化 4/20 患者さん全員へのマスク配布を決定
4月下旬	国内の死亡者数が400人を突破 世界累計感染者数が320万人を突破、 世界累計死亡者数が22万人を突破 無症状、軽症患者の病院からホテルへの移動が開始	4/24 **サーモグラフィーでの発熱患者対応の方針、スタッフの個人防護具の基準が決定** **PCR検査、検診を院内で週2回対応することが決定** 4/25 救命救急センターでCOVID-19 重症患者7例目を受け入れ
5月上旬	国内感染者数が1万5000人を突破 **全国の「緊急事態宣言」を5/31まで延長** 厚生労働省が「レムデシビル」を薬事承認	5/8 外来患者等、学外者の入館時の検温を開始
5月中旬	厚生労働省が日本初の抗原検査キットを薬事承認 **北海道・東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・大阪府・兵庫県・京都府以外の39県の緊急事態宣言を解除**	5/14 教職員のメンタルサポートチームによる教職員アンケート実施
5月下旬	**大阪府・兵庫県・京都府の緊急事態宣言を解除** **緊急事態宣言を全都道府県解除**	5/21 ハイリスク待機手術におけるCOVID-19の術前遺伝子検査を開始、医学部生へのサージカルマスク配布を開始
6月	厚生労働省が唾液によるPCR検査を承認 厚生労働省が新型コロナウイルス接触確認アプリをリリース 国内の感染者数が1万8,000人を突破 世界累計死亡者数が50万人を突破、 世界累計感染者数が1000万人を突破	6/5 学校法人兵庫医科大学 「第16回新型コロナウイルス対策本部会議」を開催

特集1
INITIATIVE 1
法人全体

感染制御部が中心となり 院内感染、医療崩壊を未然に防ぐ。

院内感染の防止だけでなく、阪神地域の医療崩壊を防ぐ取り組みで地域にも大きく貢献した学校法人兵庫医科大学。そうした法人全体の対策を指揮し、中心的な役割を果たしたのが、感染対策のプロフェッショナル集団である「感染制御部」のメンバーです。

法人全体を指揮しつつ、阪神地域の病院間連携も

兵庫医科大学病院 感染制御部 部長
竹末 芳生

3月には本法人1例目を確認 4月には重症例の受け入れを開始

2019年に中国の武漢で新型コロナウイルスが発生した時点では、正直なところ、まだ対岸の火事といった印象で、我々が患者さんを診察するような事態が直ちに発生するという意識はありませんでした。しかし、以前にはSARSやMERSなどの事例もあり「流行の可能性を考慮しながら体制を整えていかなければならない」という認識はありました。そこで、まずは新型コロナウイルス患者が発生した際の院内マニュアルを整備し、続いて、発熱した方が新型コロナウイルスの感染を疑って多く来院するケースを想定して「発熱者に対する感染症外来の設置」などを行いました。

2月ごろになると日本でも徐々に患者数が増えてきましたが、当時の当院の対応としては、新型コロナウイルスの患者さんを診ていくというよりは、その他の重症患者を受け入れていくことを想定していました。当時、新型コロナウイルス感染症例は、感染症指定医療機関で受け入れされていたのですが、3月に緊急搬送されてきた患者さんが、実は新型コロナウイルスに感染していることが判明したのです。その時点で、我々感染制御部や救命救急センターは、「他の施設に依存するのではなく、自分たちで新型コロナウイルス感染者を治療していかなければならない」との覚悟が固まりました。

その後、4月には感染症指定医療機関だけでは病床数が足りなくなってきたこともあり、「重症感染症例については受け入れをしていく」ことを決定しました。また、その頃から感染症外来における内科輪番制を開始し、回復患者へのリハビリテーション部の協力、基礎系スタッフも含めた外来サーモグラフィーでの発熱患者さん対応など、法人全体で新型コロナウイルスと戦う体制が整ってきました。

院内感染防止だけではなく 他病院との連携も

感染制御部としては、まず院内での飛沫感染・接触感染を予防する策として、N95マスクなどの個人防護具(PPE)の適切な使用を促しましたが、当時は供給不足の問題があったため、事務スタッフと協力して各部署への配布調整を行いました。調整にあたっては、何よりも前線に立っている救命救急スタッフの安全を守ることを優先しました。

また、環境消毒のための紫外線照射ロボットや、遺伝子検査用機器の購入などについて経営側に要望し、迅速に実現することができました。さらに、新型コロナウイルス用の新薬の手配等の方針を決定するなど、感染制御部内外の多職種スタッフの協力のもと、対応を進めていきました。

一方で、病院内の医療スタッフの中には「自分も感染したら…」と過度の不安を感じる者もおり、当初はその対応にも追われました。しかし、正確な情報をもとに、決められた方針をぶれることなく粛々と進めていくことで、院内での感染制御部に対する信頼が少しずつ得られていったのではないかと思います。

また、兵庫医科大学だけの感染対策に留まらず、地域で協力しながら新型コロナウイルスのマネジメントを行っていくことも感染対策のプロである我々の使命です。そこで、以前から行政のバックアップで立ち上げていた「阪神南圏域感染症対策ネットワーク」を新型コロナウイルス対策に活用することにしました。兵庫県にはコーディネートセンターもありますが、各施設の実情を知った上での入院調整が必要なため、最終的には北圏域も含めた新型コロナウイルスを扱う全施設がネットワークに参加し、「重症例は兵庫医大」「重症～軽症は尼崎総合医療センター」「中等症～軽症/無症状例はその他の施設」という役割分担の調整役を本法人が担当しました。そうした連携をスムーズに行い、阪神地域の病床を効率的に活用できたことで、医療崩壊を未然に防止することができたと考えています。

来るべき第3波に備え 万全の体制を整える

現在はすでに第3波への準備を進めています。病院全体として流行のフェーズに応じて段階的に病床数を増やす方針を決定し、それに併せて感染症ベッドのゾーニングを明確にするための救命救急病棟の改修も進めています。また、手術患者さんに対する術前検査や、濃厚接触者対応のための遺伝子検査機器を追加購入します。治療面では、重症度に応じた薬の選択について基本方針も決まりました。これからの秋、そして冬には新型コロナウイルスの患者数がさらに増えることが予想されます。今後も一部の部署だけではなく、法人全体で戦っていくという強い気持ちを持ち、皆でこの難局を乗り越えていきたいと思います。

看護師・事務スタッフの力を借り体制構築に奔走

感染制御部 医師
中嶋 一彦

当院では2020年2月20日に感染症外来を開設し、私が新型コロナウイルス感染の疑いのある方の診察や、診察体制の構築などを担当しました。流行が進むにつれて、一人では診察に対応できなくなってきたので、呼吸器内科や総合内科、外科系の医師にも応援を要請し、輪番制で対応に当たりました。

また、体制構築も重要な課題で、新型コロナウイルス感染の疑いが強い患者さんが来院したときの連絡体制、検査体制をどうするかについて、検査部門や事務部門との調整を繰り返しています。

新型コロナウイルスは、未知の感染症ということもあり、行政側の対応や通知もどんどん変わります。また、物品の確保など院内からも多数の要望が上がってきますので、そういった事務的な部分にもかなり苦労しました。これらの対応は医師だけでなく、看護師や事務スタッフの協力なしにはできないことだったと思います。本当に感謝しています。

今後の課題としては、患者さんの受け渡しの際、新型コロナウイルス感染のリスクがどのくらいあるかなど、情報収集も含めた病院間でのコミュニケーションをさらに密にしていくということが挙げられます。また、院内感染についてもさらに対策を進める必要があります。

感染対策に100%はありませんが、できる限りそれに近づけるように改善を続けていきます。

医療従事者の予防策への意識が試されている

感染制御部 看護師長
一木 薫

私は、主に院内感染の予防策を担当していました。マスク、グローブ、ガウンなどの個人防護具(PPE)の確保、院内感染対策マニュアルの構築と周知、院内の消毒などです。

過去にSARSやMERSが流行した際にマスクが確保できなくなるということは経験していましたので、物資の確保については2020年1月、2月の段階から、看護部の物流担当や外部の協力企業と連携しながら動いていました。物資は途中から入って来なくなることも考えられますので、今必要な分を確保することはもちろん、「あと何カ月間もつのか」といった予測を立てながら、物資をどう分配するかなどの調整も進めていました。

対策マニュアルについては、例えば患者さんを受け入れる際の動線やPPEの使い方のルールなどになりますが、マニュアルは作るだけではなく、全スタッフに正しく伝わらなければいけません。そこで、掲示物の作成やデジタルサイネージの使用など、広報部門とも協力しながら進めていきました。

これまで院内感染対策を担当してきて、「我々医療従事者は、このウイルスに『日頃どれだけ標準予防策をしっかりできているか』を試されているのではないか」と思うことがあります。恐ろしいウイルスではありますが、手指消毒などの従来の予防策を正しくきちんとできる技術があれば、かなり感染を抑え込めると感じています。逆に言えば、いわゆる「慣れ」が出てきてほころびが出てくると感染リスクが高まる傾向にありますので、すべてのスタッフが正しく予防策を継続できるよう、注意喚起を続けていきます。

大学病院

面会禁止・出入口制限の貼り紙

コロナ臨時外来の待合

医科大病院での検温の様子

導入した紫外線照射消毒装置

篠山キャンパス

サーモグラフィーによる検温

発熱・特殊発熱対応テント

取材は2020年8月下旬に実施しました

特集1
INITIATIVE 2
病院

実際に診察した職員が語る 重症患者治療の最前線

兵庫医科大学病院では、2020年4月3日より新型コロナウイルス重症者の受け入れを正式に開始。9月27日現在、11例の重症例の治療を行いました。その最前線は、どのような状況だったのか。救命救急センターのスタッフに聞きました。

症状が目まぐるしく変化する未知の病の恐ろしさ

兵庫医科大学病院 救命救急センター 副センター長・医師
白井 邦博

流行が進むにつれて新型コロナの症状が徐々に明らかに

新型コロナウイルスについて報道され始めた当初から「いずれ日本でも流行するだろう」という認識はありました。しかし、どのくらいの伝播力があり、どういった症状が出るのかについて、当時はまだ不透明で、まだそこまでの危機感はありませんでした。

やがて流行が広がるにつれ、このウイルスは感染力が強く、進行スピードも急激であることが明らかになりました。さらに、各国の論文を見ていると、肺炎だけではなく様々な合併症を引き起こすということもわかってきて「これは非常に危険な病気だ。こうした症状の患者が押し寄せると救命救急センターでは全ての患者に対応しきれないのではないか」と危惧するようになりました。

肺だけの病気ではなく全身病ともいえる多岐にわたる症状

実際に重症患者の受け入れを開始してから、この病気の恐ろしさを目の当たりにすることになりました。各種報道にもあるとおり、肺炎については進行スピードが非常に速いことが特徴で、ある一定時点からわずか数時間で人工呼吸やECMOが必要になるほど急激に悪化するケースが見られました。

決して勘違いしてはいけないのは、「新型コロナウイルスは肺だけの病気ではない」ということです。実は、当院で残念ながら亡くなられた方の中で、肺炎が直接の原因だった方は一人もいません。亡くなられた方は、ほぼ出血もしくは心不全、心筋症です。論文では「人工呼吸器が必要になった患者の30%が何らかの心臓の障害を引きおこす」とも言われています。他にも腎臓、肝臓、心臓、脳などの疾患を引き起こすケースもあり、もはや全身病と言ってもいいでしょう。

実際の治療の流れとしては、酸素投与だけで生命を維持できなければ人工呼吸を行い、人工呼吸でも酸素が取り込めない場合はECMOを使用。同時に抗ウイルス剤を投与します。当初はアビガンを使用していましたが、現在はレムデシビルを使用しています。ただ、そこまでしても肺以外の疾患が多数出てきますから、全く安心はできません。患者の経過は非常に注意深く観察する必要がありました。

中には、血液が凝固して血栓がいくつもできていた患者が、数時間後には逆に出血しやすい状態になり、脳出血を起こすということもありました。このケースのように、病気のフェーズによって症状が目まぐるしく変化するのが、最も恐ろしい部分だと思います。

今は後遺症についても情報が出始めていて、息切れ、倦怠感、味覚・嗅覚障害、集中力の低下などが残ると言われています。この病気はまだ確認されてから日が浅いため、今後さらに出てくる可能性もあります。

当院では重症患者や重症化リスクの高い患者を、今のところ11名を受け入れてきましたが、長く救急救命に携わってきた中でも、ここまで多岐にわたる疾患を引き起こす病気というのは初めての経験でした。

インフルエンザとの同時流行は要警戒

9月現在もまだまだ予断を許さない状況ではあるものの、最も感染者が多かった時期と比べれば、流行は落ち着いてきているように感じます。「流行が収まった」というよりは「感染者の数が安定してきた」という印象です。これからは特に、重症者の数について注視していく必要があると感じます。

元々、日本人というのはきれい好きで、ルールを守る民族です。今回の流行で感染症についてかなり学ぶことができたと思います。今後ワクチンさえできれば、完全ではありませんが、徐々に元の生活に戻っていけるのではないかと思います。

ただ、冬の時期はインフルエンザとの同時流行を警戒する必要があります。冬はどうしても窓を閉め切って密になりますし、インフルエンザとの鑑別をどうするかという問題もあります。特に12月から3月にかけては、より警戒する必要が出てくるのではないかと思います。

取材は2020年8月下旬に実施しました

最前線での対応では心理的負担も

救命救急センター
看護師

重症患者さんの看護を担当しました。受け入れ当初はまだ手順が完全に確立されておらず、防護具・物品管理・環境整備・治療・看護ケアなど全てが大変でした。最初は有効な治療の情報が少なく、病状が急激に変化していく患者さんの姿を目の当たりにして、患者さんの予後はもちろん、自身への感染に関しても恐怖を覚えるようになりました。最善を尽くしても残念ながら亡くなられた患者さんもいました。最期を看取るとき、ご家族の面会ができない現実は、担当した看護師全員が艱難辛苦（かんなんしんく）の思いでした。また、感染患者さんの対応をしている医療スタッフに対して少なからず偏見などがあり、仕事に対する恐怖感だけでなく、そういった部分での心労もありました。新型コロナウイルスはまだまだ流行の渦中にあり、依然として油断ができない状況が続いています。今後も院内感染への対策はもちろん、スタッフ全員が心身健康でいられるように協力し合い、新型コロナウイルスに立ち向かっていきます。

生命維持管理装置の管理を担当

臨床工学部
臨床工学技士

当部門では、新型コロナウイルス患者への人工呼吸器・血液浄化療法・ECMOの導入から管理までを行いました。新型コロナウイルス患者の対応は通常とは違い、人工呼吸器使用時には大気中にウイルスを拡散させないように呼気フィルターを取り付け、ECMO施行時は人工肺から血漿リークが発生した場合には大気中にウイルスをまき散らさないようリークポートにガーゼをあてて持続吸引を接続するなど、医師、看護師と積極的に情報共有しながら院内感染を防ぐ取り組みを進めてきました。今回のコロナ禍の報道で、「医療崩壊」や「医療従事者差別」といったワードをたくさん目にしてきました。医療機器や医療材料の不足もそうですが、スタッフの誰か一人が感染することで、感染が拡大し、業務が回らなくなってしまうことも一つの医療崩壊といえます。新型コロナウイルス患者の治療をしながら、自身も感染しないように細心の注意を払い続けるのは大変なストレスです。そんな中、悲しいことに医療従事者に対して差別的な見方や発言も見られました。しかしながら、この苦境を打破するためには、ここで私たち医療従事者が踏ん張らなくてはならないと思います。私も「医療機器の専門家」の立場から、新型コロナウイルス患者の治療で貢献できればと思います。

重傷者を受け入れたEICUの様子

ECMO装置

臨時の待合テント

院内の動線を制限

	兵庫医科大学病院	篠山キャンパス
3月	3/2 面会制限を実施 3/4 急性医療総合センターの除染室に感染症診察室Cを開設 3/5 新型コロナウイルス患者の1例目を受け入れ	3/4 面会制限を実施
4月上旬	4/3 救命救急センターにて重症例の受け入れ対応をすることが決定 4/4 外来でPCR陽性が判明（軽症のため別病院に紹介）、3例目の受け入れ（重症のため紹介入院）	4/3 電話再診による処方箋の発行の臨時対応開始（6/2終了） 4/6 通所リハビリ利用者の施設入室前検温開始
4月中旬	4/12 5例目の重症患者を受け入れ 4/13 健康医学クリニック・人間ドッグを休業（～5/29）	4/13 正面玄関にて来院者検温開始 4/16 面会制限から面会禁止へ
4月下旬	4/30 COVID-19を検査可能な遺伝子検査機器を購入	
5月	5/1 患者数の増大に伴い外科系輪番制を開始 5/12 職員のメンタルサポートチーム設立	5/18 発熱外来・特殊発熱外来設置 5/25 発熱・特殊発熱対応テント設置
6月	6/8 ランプ法とPCR検査の両方での遺伝子検査体制の構築	6/8 正面玄関にて赤外線サーモグラフィーカメラを用いての来院者検温開始

特集1
INITIATIVE 3
大学

コロナ禍の、教育の現場で。

卒業式や入学式が中止となるなど、
教育の現場にも大きな影響をもたらした新型コロナウイルス感染症。
しかし、「こんな時だからこそ、自分にできることを」と考え、行動した学生や教員たちがいました。
社会や教育を支えた、彼らの活動をご紹介します。

学生の自主的な取り組み

医科大

新歓WEBサイト制作

各部活を紹介する新入生歓迎（以下、新歓）イベントの中止に伴い、2020年4月初旬に学生会が主体となって「新歓WEBサイト」を制作。新歓イベントで放映予定だった動画を掲載することで、新入生に兵庫医科大学の校風や部活動の様子を伝えました。

新歓は新入生にとって貴重な先輩たちとの交流の場ですが、部活見学などが行えない状況であったため「少しでも新入生に兵庫医大の学生生活が伝わればいいな」と思い、新歓WEBサイトを立ち上げました。

2020年の2月末に発案、4月初旬公開という短期スケジュールでしたが、新歓イベントで放映予定だった各部活のPR動画を集積し、シンプルで分かりやすいレイアウトで掲載しました。

このサイトをとおして新入生に最も伝えたかったのは「なんやかんやで大学生活は楽しい」ということです（笑）。「勉強が大変」「試験は多いし難しい」「部活する余裕がない」など、入学当初から先生方のお話や噂などで不安になる人が多いと思います。また、大変な受験勉強を乗り越えてやっと大学生活がスタートするという時期にさまざまなイベントが中止となり、イレギュラーな事態も多く、気持ちも沈みがちになると思います。そんなときに、各部活の動画を見て少しでも前向きになり、コロナが落ち着いて部活動が再開された時のモチベーションになればうれしいです。

学生会
中嶋 淳美さんより
（医学部 5 年次生）

掲載された部活動紹介動画

医療大

「オンラインサポート制度」を実施

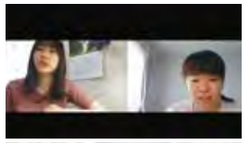
新入生歓迎イベントの中止や、例年実施している上級生による新入生サポート「アドバイザー制度」の対面実施の中止に伴い、大学行事実行委員会や部会に所属する上級生が新入生に対してオンラインでサポートを実施しました。

オンライン授業が始まった4月は、3年次の私ですら不安で、人と会うことが勉強のモチベーションや日々の安心につながっていたと気づかされました。新入生はもっと不安だったはずですから「先輩として今できるサポートは何か」を考え、この制度を実施しました。

3月頃からオンライン会議でメンバーと議論を開始したものの、考えをまとめるのに一苦労。教職員の方にも相談して少しずつ形が見えていきました。

サポート終了後は、アドバイザーを務めた上級生の「うまくいったよ！」という報告がうれしかったです。新入生からも「不安だったけれど安心した」「サポートを続けてほしい」といった声が聞けて良かったです。

大学行事実行委員会 副委員長
別府 帆夏さんより
（リハビリテーション学部
作業療法学科 3 年次生）



上級生2名での
事前打ち合わせ

新入生も
参加した
サポートの様子

大学行事実行委員会
オンライン会議システムや通信アプリを活用して、例年は学内で行うアドバイザー制度のオンライン開催を実施しました。上級生が2名、新入生が4～6名ほどが1グループとなり、定期的にオンラインで集まって、新入生の悩み相談や大学生活について和気あいあいと会話しました。

部会
課外活動団体がそれぞれのSNSアカウントでオンライン新歓に関する情報を発信・告知し、オンライン会議システムや通信アプリでオンラインミーティングを開催しました。

医科大

手作りマスクを寄贈

2020年6月19日、医学部2年次の女子学生がマスク72枚を手作りし、兵庫医科大学病院の小児科病棟へ寄付しました。

このマスクは、夏場の汗による蒸れなどを考慮して通気性の良いガーゼ布地を用いて作られた“夏用”で、サイズは子ども用S・M・Lの3種類。感染に注意しながら少しでも楽しい夏を過ごしてもらえるように、同病棟に入院する子どもたちに配布されました。

小児科病棟での寄贈の様子

寄贈された手作りマスク

医療大

「自宅でできるエクササイズ」パンフレットを作成

2020年5月、リハビリテーション学部 理学療法学科 永井研究室の学生が中心となり、「自宅でできる簡単エクササイズ」のパンフレットを作成しました。

兵庫医療大学では、住民が主体的に地域の健康づくりを推進することを目的として「健康づくりサポーター」を養成していますが、新型コロナウイルスの影響で自宅にこもりがちになり、活動性が著しく低下している方々がおられるとの市民の声が大学に届きました。

そこで、「お役に立てる情報が発信できれば」とパンフレットを制作することになり、サポーターの方のご意見を参考にしながら完成させました。

大学ではWEB講義を導入

2020年4月から5月まで学生の登校を禁止したことに伴い、座学形式の講義はすべてオンライン配信で行いました。

兵庫医科大学 教授 ／ 医学教育センター長
成瀬 均

WEB講義の配信とオンライン上での口頭試問を行いました。少人数で行うオンライン口頭試問は極めて有効であるという印象で、台風などで大学への登校が禁止となった場合の選択肢の一つとしても有用と考えています。一方、対面の授業がベストと考える教員も多く、ポストコロナを見据えて、今後オンライン教育についてより周知を進めていきたいと思います。

兵庫医療大学 薬学部 教授 ／ 教務部長
山本 悟史

全教員がスムーズにオンライン授業を実施できるよう、システムを標準化することに苦慮しました。教員の方々においては授業動画の作成はもちろん、実習・実技系科目についてもオンラインでの実施としたため、かなり苦慮されたことと思います。アンケートによってオンライン授業の長所・短所が見えてきましたので、後期授業に向けて改善していきます。

オンライン口頭試問の様子

	医科大	医療大
2月		2/25 3月のオープンキャンパス・留学の中止を決定
	2/26 全学生に海外・国内旅行歴調査を実施、北海道への旅行禁止を通知 2/27 課外活動における合宿、主催する試合・イベント等の自粛を要請	
3月上旬	3/2 卒業式の中止を決定 5年学外臨床実習中止、学生の他院への病院見学の当面禁止を決定	3/2 学位授与式の中止を決定
3月下旬	3/21 3月末迄の間、課外活動の中止を決定	
		3/30 授業開始日の延期、保護者説明会の中止を決定
	3/31 入学式の中止を決定、5月2日までの1年から4年までの講義（座学）をWEB講義で行うことに決定	
4月	4/1 大学内立入禁止および在学生・新入生オリエンテーションの中止を決定	
		4/2 大学院新入生およびBP受講生オリエンテーションを中止
	4/7 臨床実習の5月2日までの中止を決定	
6月	6月 各学年ガイダンスを実施、順次登校を再開	6月 6月・8月のオープンキャンパスの中止を決定

特集2

学生と教員のつながり

兼原医科大学・兼原医療大学は、その学びの中で
学生と教員のコミュニケーションを重視しています。
研究室やアドバイザー制度など、さまざまな場面で学生が感じる
教員とのつながりを、インタビューをとおしてご紹介します。

休校の続くコロナ禍でもアドバイザーグループでつながりを

兼原医科大学
生物学 准教授
菅原 文昭（左）

×

兼原医科大学
医学部 1年次
廣本 よし乃さん（右）

――アドバイザーグループとはどういった制度でしょうか

菅原：アドバイザーグループとは、いわば「ミニ担任」のようなシステムで、入学当初から6～7名の学生に対し、基礎・教養分野の教員1名がアドバイザーとして割り当てられ、より近い位置で学生を見たり、相談に乗ったりする制度です。例年であれば入学してすぐにグループ分けをして一緒に昼食を取ったりするので、学生にとっては一番最初に友達を作るチャンスでもあります。

廣本：私は入学してからアドバイザーグループについて知りました。大学には高校の時からの友人も何人かいますが、アドバイザーグループのおかげで新しい友達ができたのですごくありがたいですね。

――コロナ禍でのアドバイザーグループの役割は？

菅原：本来は学外オリエンテーションなどで学生同士が交流を深める機会があるのですが、今年に関しては6月初旬までは登校も禁止でした。学生も「かなり不安を感じているだろうな」と思い、唯一の登校日だった4月4日のオリエンテーションですぐにLINEグループを作って、担当するクラスの学生とコミュニケーションが取れるようにしました。また、今年はオンラインを活用したミーティングを8回ほど開催しました。

廣本：先生が学生同士で話す機会を作るような企画をしてくれたので、直接会えなくてもすぐに打ち解けることができました。オンラインミーティングがなかったら家にいるだけで横のつながりが全くできなかったので、とても助かっています。今年は講義がWebだったため、受講や課題の提出でシステム上分からないところも相談に乗っていただけました。

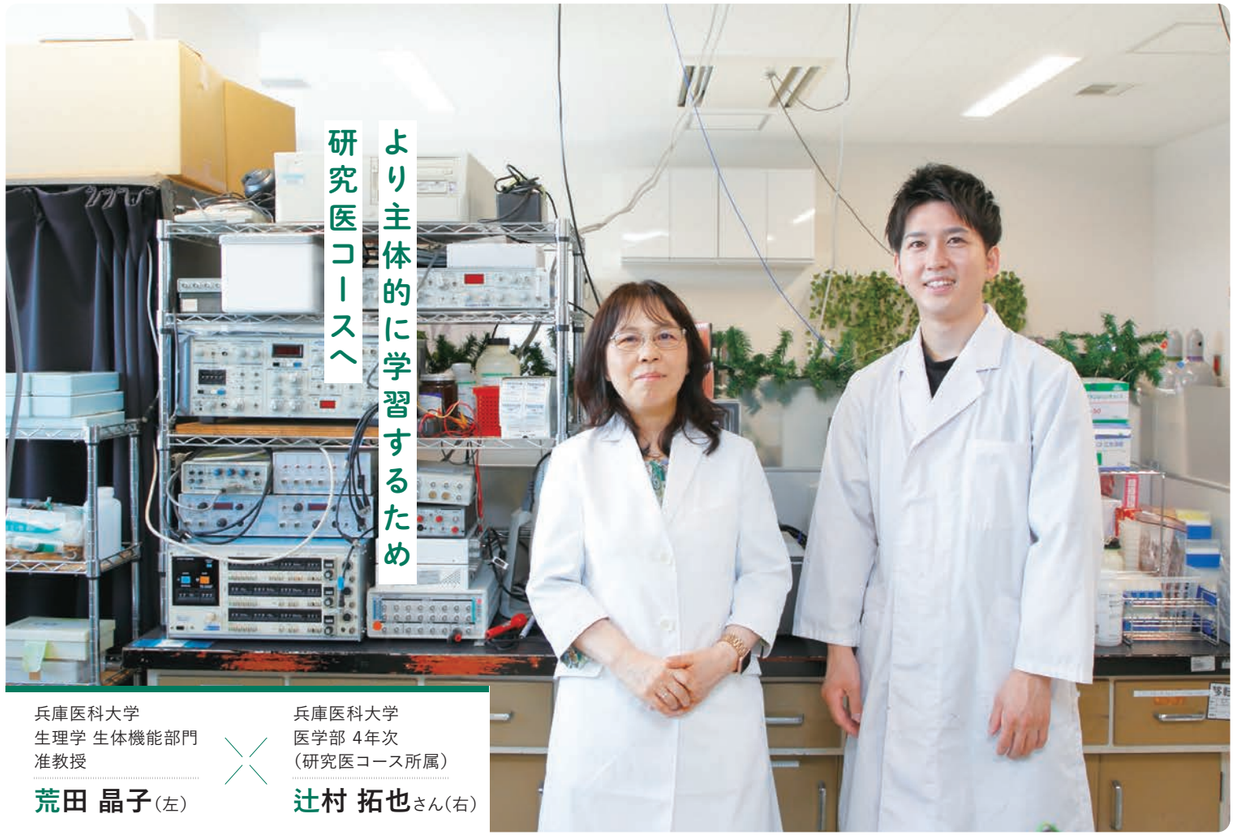
菅原：教員側も今年は初めてのことが多かったので、そのあたりはこまめにフォローしていましたね。

――お互いの印象は？

菅原：廣本さんをはじめ、今年の担当グループの学生は明るい子が多く、グループの結束が強い印象ですね。

廣本：同じアドバイザーグループの友達とも話すのですが、菅原先生は学生との距離が近い先生だと思います。大学は高校よりも先生と学生の距離が遠いイメージだったのですが、菅原先生をはじめ、兼原医科大学はどの先生も対応が親切で、質問に丁寧に答えてくれる印象です。

菅原：兼原医科大学は単科大学で学生数もそこまで多くないということもあり、もともと教員と学生の距離は他の大学と比べて近い方だと思いますが、アドバイザーグループがあることでさらに近くなるので、いい制度だと思いますね。



より主体的に学習するため研究医コースへ

兼原医科大学
生理学 生体機能部門
准教授
荒田 晶子（左）

×

兼原医科大学
医学部 4年次
（研究医コース所属）
辻村 拓也さん（右）

――辻村さんはなぜ研究医コースに入ろうと思ったのでしょうか

辻村：試験に受かるためではなく、「純粋に自分のために勉強がしたい」「自分が情熱を持てる事により時間をかけたい」と考えたのが理由です。研究医コースでは、研究の時間を多く費やす分、学科試験が免除されます。その分、自己責任で勉強する必要があります。これまでの試験の結果などから、このまま継続して取り組めば、「国家試験に合格できるのでは」と自信がついてきたので、残りの学生生活は、悔いなくより自分らしく努力しようと思い、研究医コースを選択しました。

――今行っている研究のテーマを教えてください

辻村：痛みと呼吸の関係性についてです。具体的には脳幹の橋結合腕傍核（きょうけつごうわんぼうかく）に注目し、温度や痛みを感じるTRPチャネルに刺激を与え、呼吸の回数の変化などを観察しています。3年次の初めは、標本を作るだけでも大変で、きちんとした標本を一人で作れるようになるまではかなり時間がかかりましたが、最近では学会での発表などもできるようになってきました。

荒田：去年から学会で発表してもらっていますが、今年予定しているものも含めると、通算5回も学会発表することになりますね。

辻村：荒田先生は半ば無理やり学会の予定を入れてきますが（笑）、一度立ち止まり、自分の研究をまとめる機会というのは、学会以外になかなかありません。学会で生理学の著名な先生方とお会いし、意見をいただけることが多いため、得るものも大きく、とても感謝しています。

――お互いの印象は？

辻村：荒田先生は一言でいうと「経営者」という印象です。先生のところには、5名程度の学生が通ってきていて、それぞれ違った研究テーマを与えられています。お互いに関連があるテーマなので協力して話し合えるため、研究室に一体感があって居心地が良いです。また、先生は適材適所に人を使っている印象です。不定期ですが、先生の元で研究をされた卒業生も来られます。その際は、実験のことを相談することもできます。

荒田：研究は、大変なこともありますが、達成感が得られることが一番重要だと思っています。そのため、グループ内ではお互いの良いところを見て、「いつでもディスカッションができること」「まずは自分で考えて何事もやってみること」が重要だと思っています。それができるような環境づくりには気を遣っています。学生が自ら努力し、成果が出れば、達成感は得られると思います。辻村さんは、「失敗すると落ち込んじゃうのかな」と思ったので、「常にやる気を持ってもらえるようなフォローをした方がいい」と思っていました。

辻村：僕は何度も同じ失敗をしたくないので、一回一回真剣に考えていたのが、先生には落ち込んだように見えたのかな。僕は研究を辞めようと思ったことは1度もないです！（笑）中高時代は、勉強に意味を見出せませんでしたが、今はこんなにも研究が面白くて、やりがいを感じられるなんて自分でもビックリです。

――将来の目標は？

辻村：小さい頃はよくアトピーで悩まされ、当時は、自分がどういう状態なのか、何故こんなに辛いのかをうまく言葉にできず、ただただ辛かったです。だからこそ、アトピーを抱えた患者さんの辛さを理解し、気持ちに寄り添っていける医師になりたいですね。

勉強がつらいこともある
それでも、人を助ける仕事がしたいから

兵庫医療大学
看護学部 講師
片田 千尋(左)

兵庫医療大学
看護学部 3年次
山本 大誠さん(中央)

兵庫医療大学
看護学部 4年次
深井 彩華さん(右)

――看護職をめざしたきっかけを教えてください

深井: 部活を引退して初めて将来のことを考え始めた時、祖父がずっと「人を助ける仕事をしなさい」と言っていたのを思い出して、「そんな仕事もいいな」と思い、顧問の先生に相談して勧められたのがきっかけですね。

山本: 「人を助ける仕事がしたい」というのは僕も同じですね。僕は生まれつきの病気があり、18歳になるまで手術や入院を繰り返していたんです。本当にたくさんの看護師や特別支援学校の先生にお世話になったので、その思いを自分と同じ境遇の子たちに返したいと思ったんです。だから、子ども病院の看護師か、特別支援教員のどちらかになろうと決めていました。最終的には、子ども病院の看護師の方が、昔の僕のような子どもたちと接する機会が多いと考えたので看護学部を志望しました。

――看護学部の先生の印象はどうですか?

山本: 勉強以外の相談も親身に聞いてくれる印象です。看護学部は、知識も技術も、本当に覚えることが多くて大変なんです。勉強時間もかなり取らないといけないので、中には辛くなって諦めそうになる人もいます。そういう時でも、先生方が学生に声をかけ、相談に乗ったりしてくれるなど、フォローをしてくれます。

片田: 看護学部のアドバイザー制度では、入学直後から学生10～20名につき1名の教員がアドバイザーになります。定期的な面談に加えて、学習に行き詰まり、精神的に辛そうな学生には個別のアプローチを行い、サポートするようにしています。

深井: もちろん勉強や進路のこともちゃんと相談に乗ってくれます。ただ、最初から答えを教えてくれるというよりも、考えるためのヒントを出してくれるようなことが多いです。

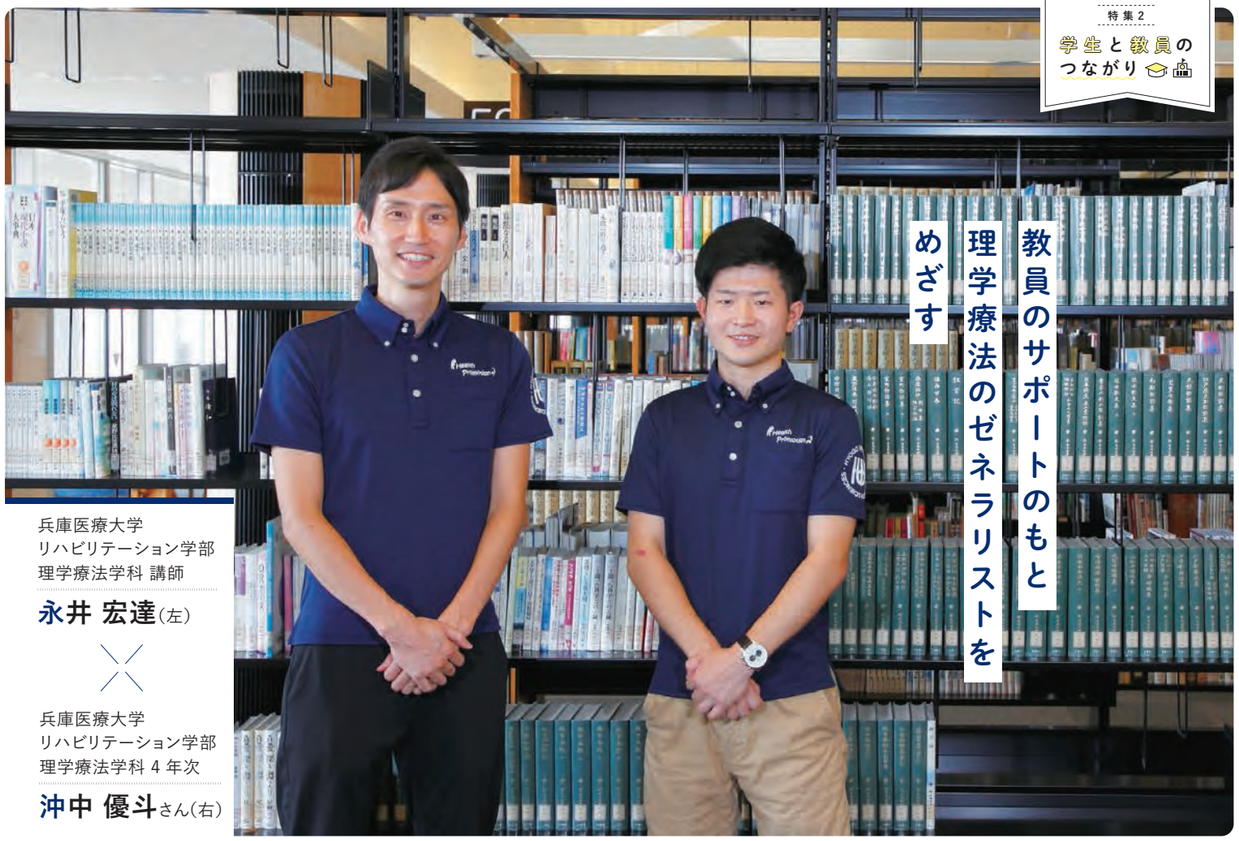
片田: それは意識している教員が多いかもしれません。資格を取ることがゴールではなくて、現場で活躍できるように「主体的に考える力を身につけてほしい」という思いがありますね。

深井: 正直「なぜすぐに答えを教えてくれないんだろう」と思ったこともありました。でも、今になって思うと、おかげで身についたことも多く、先生方には感謝しています。

――将来はどんな看護師になりたいですか?

山本: 僕は小さい頃から入院することが多かったので、看護師にしてもらってうれしかったことも覚えています。だからこそ、患者目線を持ちながらケアできる看護師になりたいです。

深井: 私は、病院以外の実習をとおして、訪問看護や保健師にも興味が出てきました。日常生活の場面で接することになるので、その人らしい暮らしを支えられる看護職者になりたいです。卒業後は看護師としての基礎を身に付けたいので病院への就職をめざしますが、ゆくゆくは保健師として、地域の現場で治療だけではなく予防などにも関わっていきたいですね。



兵庫医療大学
リハビリテーション学部
理学療法学科 講師
永井 宏達(左)

兵庫医療大学
リハビリテーション学部
理学療法学科 4年次
沖中 優斗さん(右)

教員のサポートのもと理学療法のゼネラリストをめざす

――永井研究室のテーマについて教えてください

沖中: 健康運動教室などを通じて、地域の方が健康に暮らせるようにサポートする活動をしています。

永井: 「健康づくりサポーター」を養成して、そのサポーターの方にさまざまな運動教室を開いていただき、住民主体で健康づくりをしてもらおうという取り組みです。そのサポーターの指導は学生にやってもらっています。

沖中: 最近はオーラル(口腔)フレイルと身体的フレイルの関連についても研究しています。6項目の指標で口腔内の状態を測定し、身体の状態との相関を調べるという研究です。

永井: この研究を進めることは、私ではなく学生側からの提案でした。もともと身体的フレイルについてだけ取り扱ってみたのですが、学生の方からやってみたいという声があったので、兵庫医科大学の研究室や新潟大学の歯科の先生にお声掛けし、共同で研究する体制を整えていきました。

――お互いの印象は?

沖中: 最初から「いい先生」という印象でした。1年次の4月に病院説明会に参加したんですが、1～2回くらいしか顔を合わせてないのに

僕が1年次だっていうのを知っていてくれて。

永井: 覚えています。その時は、沖中さんのことをよく知っていたわけではないんですけど、理学療法学科は1学年で40名くらいなので、だいたいの学生の顔は見たことがあるんですよね。その中に見慣れない顔がいたので、「あ、1年次にこんな子いたな」と思いました。病院説明会は、就職説明会なんですよ。普通は1年次から来る学生はいないので、すごいなと思って声をかけました。

逆に私から見ると、沖中さんは「純粋に良い理学療法士になりたいと思って勉強しているな」という印象です。理学療法学科はもともと真面目で熱心な学生が多いですが、沖中さんは自らトライしていますね。最近は英語で論文を書くことにもトライしています。

沖中: 論文などで英文に触れる機会が多いので、この際だからやってみようと思って。

永井: コロナの影響で研究の進め方を変えているということもあるのですが、4年次のこの時期に英語論文というのはこの研究室では初めてですね。それだけモチベーションがあるならと、こちらも全力でサポートしています。

――将来の目標は?

沖中: 理学療法士として、もっと幅広い知識を身につけて、特定の疾患だけではなく、どんな疾患でも診ることのできるゼネラリストになりたいです。そのために、気になったことは原典の論文まで辿れるくらい調べるようにしています。

永井: 臨床の現場では、全く同じ患者さんというのはいませんから、自分で課題を見つけて、自分で工夫して解決する力がないと難しいと思います。でも、沖中さんの地域活動や研究の姿勢を見ていてもそういう素養があると思うので、良い理学療法士になれるのではないかと期待しています。

兵医広報

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
vol.251　2020 AUTUMN

CONTENTS

01 特集1 新型コロナウイルスを乗り越えるために

09 特集2 学生と教員のつながり

14 NEWS & TOPICS
- 女性の活躍を推進するため行動計画を刷新
- 機会の創出を狙い学内の研究推進助成制度を刷新
- 「2019年度研究助成制度顕彰」を授与
- 学生が選んだ「2019年度 ベストティーチャー」
- 学生が選んだ「レクチャー・オブ・ザ・イヤー2019」
- 薬草の売上金を丹波市へ寄附
- コロナウイルス対策としてテントを設置
- 学生宿舎「ささやまみらい」の運用を開始
- 好酸球性肺炎の発症因子を発見
- 木村准教授が「イクボス特別奨励賞2020」を受賞
- 「おうちでHANSHIN健康メッセ」オンラインイベントを実施
- 島津製作所と産学連携講座を設置
- サッカー日本代表・堂安選手よりご寄附いただきました
- シーズ集WEBサイトをリニューアル
- 「高校教員対象 入試説明会」を開催
- WEB OPEN CAMPUS サイトを新設(医科大)
- WEB OPEN CAMPUS サイトを公開(医療大)
- 兵庫医科大学後援会
  「2020年度 総会および教員・保護者懇談会」を開催
- 支援グループ10周年記念式典を挙行
- 教員学術賞および大学院生学術賞の受賞者を表彰
- 新大学誕生をめざし、部会やプロジェクトでの検討が本格化
- コロナ禍でも、“チーム医療演習”を実践

22 寄贈に対する御礼

23 卒業生 INTERVIEW
総合病院から介護の道へ 理学療法士の新たな活躍の場を拓く
サンシティタワー神戸 理学療法士
窪田 萌乃さん(兵庫医療大学 2014年卒)

25 HYO-i LAB -研究紹介-
異分野とのコラボレーションでまだ見ぬ領域を切り拓く
兵庫医科大学　眼科学教室
主任教授　五味 文

法人からのお知らせ

27 2019年度(令和元年度)決算について

29 2020年度 科学研究費助成事業交付状況一覧／研究助成金等の交付状況

31 Road to 2026 ～「新病院棟」完成への道～
新病院棟の建設に向けて
「駐車場棟(仮称)」「デッキ棟(仮称)」の建設工事を開始

知ってる?篠山キャンパス

32 人事情報

33 募金状況／主な行事予定(11月～1月)

学校法人 お知らせ

女性の活躍を推進するため行動計画を刷新

2015年9月に女性活躍推進法が制定されたことに伴い、学校法人兵庫医科大学は、2016年4月1日、女性の自立的・継続的なキャリア支援のための行動計画を策定しました。この計画目標を達成したため、2020年4月1日付けで行動計画を刷新。「女性教授比率の向上」「組織の意思決定の場における女性の参画促進」「職業生活と家庭生活との両立に資する環境の整備」など新たな目標を設け、法人としてダイバーシティ推進に一層取り組むことになりました。計画期間は2020年4月1日～2025年3月31日までの5年間です。

■学校法人兵庫医科大学　女性活躍を推進するための行動計画

期間	2020年4月1日～2025年3月31日
課題	1. 医師・研究者(以下、医師等という。)における女性の教授比率の向上 2. 事務職員における女性の管理職比率の向上 3. 組織の意思決定の場における女性の参画促進 4. 職業生活と家庭生活との両立に資する環境の整備
数値目標	・医師等における女性の教授比率 15%以上 ・事務職員における女性管理職比率 20%以上 ・男性の育児休業取得率 5%以上

医科大 研究研究

機会の創出を狙い学内の研究推進助成制度を刷新

2019年度に兵庫医科大学研究推進ワーキンググループを大学運営会議の下部に設置し、2020年度以降の兵庫医科大学の研究助成制度を見直しました。研究者の研究スタイルに合わせ、研究活性化に資する具体的成果を求める「①研究活性化助成」、女性研究者のキャリア形成を目的とした「②女性研究者研究助成」、若手研究者の研究能力向上を目的とした「③若手研究者研究助成」の3つのタイプを設定。2020年6月頃に公募を行い、研究推進助成審査委員会による審査の結果、3つのタイプを採択しました。

■2020年度研究推進助成　採択研究課題

①研究活性化助成

研究者	研究課題名
皮膚科学　講師 今井 康友	Single cell RNA-Seq解析を用いたアトピー性皮膚炎の病態解明
呼吸器・血液内科学　講師 南 俊行	肺癌治療において分子標的治療薬が惹起する薬剤性肺障害の発症機序の解明とその克服
病原微生物学　助教 小椋 英樹	T細胞ライブラリアッセイを用いたSARS-CoV-2特異的な機能的CTLの検出とワクチン開発に向けた主要抗原エピトープの探索
解剖学 神経科学部門　講師 山中 博樹	再生関連因子GAP43とL1-CAMのJNKリン酸化と一次求心性線維終末varicosityの形態変化による新生疼痛経路の検討

②女性研究者研究助成

氏名	研究課題名
糖尿病内分泌・免疫内科学　助教 森本 麻衣	アレルギーマーチと関連難治化喘息への治療応用を目指したIL-33の病態関与の解明
病原微生物学　助教 孫 安生	潰瘍性大腸炎術後回腸嚢炎の発症・増悪における病原性常在細菌の解析
解剖学 神経科学部門　講師 小林 希実子	末梢神経損傷による神経障害性疼痛発生時の一次知覚神経-脊髄血管-脊髄neuron連関の解明

③若手研究者研究助成

氏名	研究課題名
消化器外科学　助教 銭谷 昌弘	重症心身障害児におけるグレリンの栄養生理学的意義の検討と臨床応用に向けた研究
精神神経免疫学　特任助教 山西 恭輔	インターロイキン18に着目した精神ストレス反応の制御機構の解明
消化器外科学　講師 片岡 幸三	大腸癌Oligometastases切除例に対するmFOLFOXIRI療法の第II相試験
糖尿病内分泌・免疫内科学　助教 三好 晶雄	RAGEを基盤とした代謝異常に伴う認知機能障害のメカニズムの解明とその予防戦略の構築
消化器外科学　助教 奥野 将之	循環腫瘍細胞の自然免疫による排除機構に着目した免疫治療ターゲット分子の探索
眼科学　助教 福山 尚	蛍光眼底画像を定量的評価方法の構築と黄斑疾患の病態解明
脳神経外科学　助教 別府 幹也	脳傷害後の組織修復機構の解明
免疫学　助教 足立 匠	プログラム細胞死の誘導を基盤とした新規粘膜アジュバント候補物質の探索とその作用機序の解析

医療大 研究

「2019年度研究助成制度顕彰」を授与

兵庫医療大学では、教育の質を担保するために、専門領域の学術的深化を図り、研究の推進を重要視した研究助成制度を設けています。2018年度の研究助成採択者から受け取った研究報告書を研究委員会・研究助成審査会が厳正・公平に審査した結果、薬学部の清水 忠准教授と杉野 佑太助教に「2019年度研究助成制度顕彰」が授与されました。

表彰式は全学教職員集会内で行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために開催が中止となったため、2020年4月10日、学長室にて藤岡学長から受賞した2名に表彰状が渡されました。

学長室で表彰(左から、藤岡学長、杉野助教、清水准教授)

医科大 お知らせ

学生が選んだ「2019年度 ベストティーチャー」

2020年3月19日、兵庫医科大学の「2019年度ベストティーチャー」の表彰を行いました。受賞者、受賞部門は次のとおりです。

なお、ベストティーチャーの選考方法は、学生が「講義およびクリクラ・ポリクリ部門」を選考し、教務委員会が「作問・ブラッシュアップ部門」を選考しました。

■講義部門 1年次

受賞者　大久保 正道 助教（解剖学 神経科学部門）

学生による授業評価アンケート上位5名　（五十音順）
大久保 正道 助教　（解剖学 神経科学部門）
菅原 文昭 講師　（生物学）
前田 誠司 准教授　（解剖学 細胞生物部門）
八木 秀司 主任教授（解剖学 細胞生物部門）
山中 博樹 講師　（解剖学 神経科学部門）

■講義部門 2年次

受賞者　久保 秀司 准教授（先端医学研究所 医薬開発研究部門）

学生による授業評価アンケート上位5名　（五十音順）
久保 秀司 准教授　（先端医学研究所 医薬開発研究部門）
辻村 亨 主任教授　（病理学 分子病理部門）
成瀬 均 教授　（医学教育学）
廣瀬 宗孝 主任教授（麻酔科学・疼痛制御科学）
山根木 康嗣 講師　（病理学 病理診断部門）

■講義部門 3年次

受賞者　今井 康友 講師（皮膚科学）

学生による授業評価アンケート上位5名　（五十音順）
伊藤 孝明 講師　（皮膚科学）
今井 康友 講師　（皮膚科学）
木島 貴志 主任教授（内科学 呼吸器科）
夏秋 優 准教授　（皮膚科学）
福井 広一 准教授　（内科学 消化管科）

■講義部門 4年次

受賞者　松田 育雄 講師（病理学 病理診断部門）

学生による授業評価アンケート上位5名　（五十音順）
中込 奈美 講師　（病理学 病理診断部門）
西尾 元 主任教授　（法医学）
松田 育雄 講師　（病理学 病理診断部門）
丸茂 幹雄 准教授　（環境予防医学）
山本 琢磨 准教授　（法医学）

■クリクラ部門

上部消化管外科

■ポリクリ部門

産科婦人科

■ブラッシュアップ部門
福井 淳史 准教授（産科婦人科学）

■作問部門
合田 亜希子 講師（内科学 循環器・腎透析内科）

※所属・役職は2019年度受賞時のもの

医療大 お知らせ

学生が選んだ「レクチャー・オブ・ザ・イヤー2019」

兵庫医療大学の「レクチャー・オブ・ザ・イヤー2019」が決定し、2020年4月10日に表彰式を行いました。

この賞は、2019年度 前期・後期の学生による授業評価アンケートの集計結果から選ばれた科目で、教育方法の工夫や学生へのきめ細やかな対応がなされ、優れた教育効果をあげたことで表彰されました。受賞科目および当該科目責任者は下記のとおりです。

受賞科目	科目責任者
「新・生理化学Ⅲ（循環・消化）」（薬学部 2年・前期）	山本 悟史 教授（薬学部）
「疾病・治療論Ⅰ（内科）」（看護学部 2年・前期）	常見 幸 准教授（共通教育センター）
「認知障害治療学演習」（リハビリテーション学部 作業療法学科 3年・後期）	山﨑 せつ子 教授（リハビリテーション学部 作業療法学科）

学長室で表彰（左から 藤岡学長、山﨑教授、山本教授、常見准教授）

医療大 お知らせ

薬草の売上金を丹波市へ寄附
～新型コロナウイルスの義援金～

2020年5月11日、兵庫医療大学と兵庫県丹波市山南町の「ふるさと和田振興会」は、新型コロナウイルスの義援金として丹波市に寄附を行いました。この寄附金は、2015年から兵庫医療大学の薬学部が薬草振興の活動として山南町と連携販売しているトウキ（薬草）の苗の売上金から捻出したものです。

その後、丹波市より、新型コロナウイルス対策に係わる物品の購入費用として活用すると発表がありました。

薬学部が山南町と販売しているトウキ

ささやま お知らせ

学生宿舎「ささやまみらい」の運用を開始
～地域に根づいた医療従事者を育成～

約40年前に建設した建物が老朽化していたため、篠山キャンパス内に新たな学生宿舎を建設しました。兵庫医科大学の医学部生や兵庫医療大学の看護学部生、リハビリテーション学部生などが実習時に宿泊でき、ささやま医療センターの研修医も宿泊できる新たな宿舎は2020年4月22日に建物が完成。宿舎名を職員間で公募した結果、地域に根づいた人材の育成と篠山キャンパスでの研修を推進する「未来アイコン的な施設」という意味を込めて、「ささやまみらい」と名付け、6月1日から運用を開始しています。

また、この施設の1階には、「談話室コーナー」を設置。学生や研修医同士が語らう場所としてはもちろんのこと、地域住民と医療従事者がふれ合える場所、さらには住民同士のコミュニティカフェとしての地域開放を予定しています。

2階建て30室の宿舎

「ささやまみらい」の表札

ささやま お知らせ

新型コロナウイルス対策としてテントを設置

2020年5月25日、篠山ロータリークラブより丹波篠山市医師会がテントの寄贈を受け、そのテントをささやま医療センター敷地内に設置していただきました。寄贈式には、篠山ロータリークラブの河合岳雄会長、丹波篠山市医師会の芦田定会長、当院の片山覚病院長が出席し、新型コロナウイルスの対策として、テントを有効活用することを約束しました。

寄贈されたテントの前で

医科大 研究

好酸球性肺炎の発症因子を発見
～免疫学研究～

兵庫医科大学 免疫学講座の足立匠助教らの研究グループは、好酸球性肺炎などに関わる「人の組織傷害」が、アレルギー症状を引き起こす原因となる物質（IL-33）の産生を引き起こすことを証明しました。

先行研究において、組織傷害を受けた肺組織から遊離された傷害関連分子パターンDAMPs（Damage-Associated Molecular Patterns）が肺組織を刺激してIL-33の産生を誘導すると仮定し、肺組織抽出物中にIL-33産生誘導活性を有するDAMPsを発見。その後4年間研究を継続し、DAMPsの正体がRBBP9（網膜芽細胞腫-結合たんぱく質9）であることを証明しました。研究グループは、「今後、RBBP9とPGE2の産生と機能を制御することで、IL-33が関与するアレルギー疾患の治療に役立つものと期待している」と発表しています。

なお、この研究成果は、2020年7月16日に医学雑誌「International Immunology」に掲載されました。

研究成果を発表した足立助教

学校法人 お知らせ

木村准教授が「イクボス特別奨励賞2020」を受賞

2020年6月3日、兵庫医科大学 眼科学の木村亜紀子准教授が「兵庫県医師会イクボス特別奨励賞2020」を受賞しました。

この賞は、兵庫県医師会が県下の医師の勤務環境向上に貢献することを目的に、病院組織内の病院長や所属長の中から受賞者を決定している賞です。木村准教授は、育児中の医師が多く在籍する眼科の女性管理職として、性別を問わず、家庭や生活を大事にしながらお互いが協力し合える環境を整備してきたことが評価され、今回の受賞に至りました。

受賞した木村准教授

ともに働く大切な後輩と視能訓練士たち

学校法人 お知らせ

「おうちでHANSHIN健康メッセ」オンラインイベントを実施
～恒例イベントの中止に伴う代替企画～

学校法人兵庫医科大学は、2015年より毎年8月に梅田で開催してきたイベント「なるほど医学体験！HANSHIN健康メッセ」を新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止したことに伴う特別企画として、オンラインイベントを実施しています。

兵庫医科大学病院の医師や兵庫医療大学の在学生、教員の協力のもと、大人から子どもまで幅広い市民を対象とした右記のコンテンツを2020年7月2日からWEBサイトで公開中です。

▶ 2020年10月1日現在、継続公開中
https://www.kenko-messe.com/ouchide/

学校法人兵庫医科大学による提供コンテンツ（一部抜粋）

動画

子どもたちへのメッセージ
篠原 尚（兵庫医科大学病院 上部消化管外科 主任教授）

動画

～おうちでカンタン！～ いきいきデカボー体操
3年次 竹見 志穂里さん
（兵庫医療大学 リハビリテーション学部 作業療法学科）

動画

～外科医と工作で学ぼう！～ どうなってるの？おなかの中
篠原 尚（兵庫医科大学病院 上部消化管外科 主任教授）

WEBページ

～おうちで実践！～ 簡単エクササイズ
永井研究室
（兵庫医療大学 リハビリテーション学部 理学療法学科）

動画

～みんなで守ろう～ ストップ！コロナウイルス
竹末 芳生（兵庫医科大学病院 感染制御部長・主任教授）

医科大 研究

島津製作所と産学連携講座を設置
～がんの早期診断システム開発をめざして～

兵庫医科大学は、2019年4月1日に株式会社島津製作所と包括共同研究契約を締結し、産学連携講座「疾患オミクス解析学」を設置して以来、がんの早期診断システムの開発をめざして株式会社島津製作所と共同研究を実施しています。

この研究は、双方が有する研究開発能力を活かして緊密に連携することが特徴で、兵庫医科大学の施設内に新たに研究拠点を設け、同一法人内の兵庫医科大学病院や健康医学クリニックで収集した検体を同社の質量分析装置にかけ、「疾患オミクス解析技術」を用いて研究を進めています。

なお、この産学連携講座の設置については、2020年6月3日に公表しました。

研究連携体制のイメージ

医科大 研究

シーズ集WEBサイトをリニューアル
～次世代を担う研究を紹介～

2020年6月22日、兵庫医科大学は次世代を担う発展性の高い研究を紹介する「シーズ集特設WEBサイト」を大学WEBサイト内でリニューアル公開しました。

医療関係や共同研究を検討される企業・団体が閲覧されることを想定し、デザインを一新。また、キーワード検索機能を付加し、より操作性をアップさせました。

公開時のシーズは19件で、そのうち7件を新たにシーズとして登録し、ほかの既存シーズも内容をアップデートしました。

リニューアルしたシーズ集WEBサイト

大学病院 お知らせ

サッカー日本代表・堂安選手よりご寄附いただきました
～コロナウイルス対応へのご支援～

2020年5月、サッカー日本代表にて活躍する堂安律選手より、ご寄附をいただきました。（ご本人の意思により、金額は非公表）

今回のご寄附は、新型コロナウイルスが蔓延する中、医療に向き合う医療従事者を応援し、不足する物資を補い支援するため、また、以前所属していたJリーグ・ガンバ大阪のチームドクターを務める兵庫医科大学病院を通じ、地元である兵庫県へ貢献するため、堂安選手からご寄附のご提案があり実現したものです。寄附金は、PCR検査機器の購入に利用させていただきました。

また、7月2日には、日本へ一時帰国していた堂安選手が兵庫医科大学病院を激励訪問してくださいました。

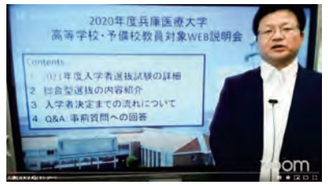
堂安選手（左）と阪上病院長（右）

医科大 医療大 お知らせ

「高校教員対象 入試説明会」を開催
～医療大はオンラインで実施～

兵庫医科大学は、学内で高校教員対象説明会を開催しました。8月12日に高校7校・予備校14校より計26名にご参加いただきました。説明会では、八木入試センター長による「2021年度入試概要説明」、成瀬医学教育センター長による「学修支援制度について」のプレゼンテーションや個別相談などが行われました。

一方、兵庫医療大学は、今年はオンラインで高校教員対象説明会を開催しました。6月25日の10時と14時の2回実施。事前に、高校25校・予備校6校から計35名の申し込み登録がありました。「入試概要・大学の活動報告」に関する動画URLを申し込み直後に送付していたため、前日までに疑問点を募った上で、当日に日高入試センター長から回答する方式をとりました。



会の概要説明を行う兵庫医療大日高入試センター長

医科大 お知らせ

「WEB OPEN CAMPUS 2020」サイトを新設
～動画で医科大を体感！～

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、兵庫医科大学は毎年夏に実施している「オープンキャンパス」を中止し、その代替として、動画を中心とした内容を多用し、スマートフォンやPCでどこからでも閲覧できる「WEB OPEN CAMPUS 2020」サイトを2020年7月30日に新設しました。

掲載した動画コンテンツは、八木入試センター長による「入試ガイダンス」、成瀬医学教育センター長が解説した「学修支援制度」、そして2019年度のオープンキャンパスで実際の模擬授業の様子を収録した心臓血管外科学 坂口主任教授による「心臓手術の最前線」などです。WEB入試相談ページへもここから遷移できます。

また、6年次の佐藤実歩さんと立津捷斗さん、および3年次の小山内貴哉さんと篠田佑乃さんが、2名1組で授業や学生生活、兵庫医科大学のPRポイントなどについて語った動画を2回に分けて公開。受験生が知りたいと思われる情報を兵庫医科大学の先輩が語る形で編集・掲載しました。

TOPページ

入試ガイダンス

学修支援制度

Q.大学の雰囲気

Q.医師をめざした理由

Q.印象に残った授業

医療大 お知らせ

WEB OPEN CAMPUSサイトを公開
～約70本の動画を次々と配信～

兵庫医療大学は、毎年夏にオープンキャンパスを実施していますが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今年はWEB OPEN CAMPUSサイトを公開する形となりました。

常設のサイトとしては、「学長メッセージ」「各学部長メッセージ」「教員によるミニ講義」などを掲載。また、2020年6月28日、7月18日・19日、8月23日・24日、9月17日～22日と大きく分けて4回にわたって限定企画を実施し、「大学全体がわかるガイダンス」「学部ごとの企画動画」「入試情報」などの動画URLを事前に申し込みをした受験生にメール送付のうえ、閲覧いただきました。9月22日現在で、合計70本以上もの動画を配信したほか、WEB会議システムを利用した相談会などを実施しました。

TOPページ

学長メッセージ

薬学部企画①

薬学部企画②

チーム医療教育について

看護学部企画①

看護学部企画②

作業療法学科企画①

作業療法学科企画②

理学療法学科企画①

理学療法学科企画②

限定企画コンテンツ　一覧

6/28 公開

▼兵庫医療大学がわかる！ガイダンス
・外観・環境、兵庫医科大学との連携、大学統合
・兵庫医療大学の魅力、奨学金制度、卒業生の声

▼共通教育センターガイダンス
・兵庫医療大学ならではのチーム医療教育紹介！

▼薬学部企画
・薬学部がわかる！ガイダンス
・薬学 ナイトキャンパスツアー！？
・薬学部Q&Aトーク！

▼看護学部企画
・看護学部がわかる！ガイダンス
・ふーたんが紹介♪看護キャンパスツアー
・センパイからのエール★

▼リハビリテーション学部企画
・理学療法学科がわかる！ガイダンス
・作業療法学科がわかる！ガイダンス
・リハビリテーション学部教員Q&Aトーク♪

▼入試ガイダンス
・入試ガイドを読もう！
・総合型選抜
・学校推薦型選抜

7/18-19 公開

▼薬学部企画
・調剤実習紹介
・Q&A（7月公開分）

▼看護学部企画
・保健師ガイダンス
・助産師ガイダンス
・看護学部の受験勉強（前編・後編）
・看護在学生が実践した勉強のモチベーション向上方法

▼リハビリテーション学部企画
・理学療法学科 学生ガイダンス
・理学療法学科 在学生Q&A
・作業療法学科 在学生Q&A
・Q&A（7月公開分）

▼入試ガイダンスブース！
・一般入試
・割引制度
・入試Q&A動画（7月公開分）

8/23-24 公開

▼薬学部企画
・生物系の研究紹介
・Q&A（8月公開分）

▼看護学部企画
・オンライン授業の"チョット見"体験
・ささやま医療センター看護部長のご講演
・在学生によるパネルトーク
・卒業生からのメッセージ

▼リハビリテーション学部企画
・＜理学療法学科＞ぷらりキャンパス歩き
・＜理学療法学科＞Q&A（8月公開分）
・＜作業療法学科＞キャンパスツアー
・＜作業療法学科＞作業療法学科 精神科領域の作業療法
・＜作業療法学科＞作業療法学科 発達障がい領域の作業療法
・＜作業療法学科＞作業療法学科 卒業生から高校生へのメッセージ
・＜作業療法学科＞Q&A（8月公開分）

▼入試ガイダンス
・入試Q&A（8月公開分）
・新型コロナウイルス感染症への対応について

▼課外活動紹介
アドバイザー制度（大学行事実行委員会）、JAZZバンド部、サッカー部、バスケットボール部、バトミントン部、軽音楽部、硬式テニス部、卓球部、野球部 計9本

▼学校推薦型選抜 入試対策講座
英語（傾向分析対策編）・（入試問題解説編）、数学（傾向分析対策編）・（入試問題解説編）、化学（傾向分析対策編）・化学（入試問題解説編）、小論文　計7本

医科大 お知らせ

兵庫医科大学後援会
「2020年度 総会および教員・保護者懇談会」を開催

2020年8月1日、兵庫医科大学後援会「2020年度 総会および教員・保護者懇談会」が平成記念会館で開催され、130名の保護者が参加しました。前半の総会では、2020年度予算の議論や国家試験合格者状況の報告を実施。後半の教員・保護者懇談会では、太城力良理事長が「輝く兵庫医大を目指して」、野口光一学長が「兵庫医科大学の現況と未来」、鈴木敬一郎副学長が「国家試験への道―なぜ医学生は勉強しないのか：兵庫医大の取組―」、石戸聡教務部長が「兵庫医大における教育について」と題して講演しました。

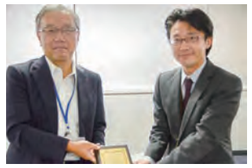
ソーシャルディスタンスに配慮して開催

医科大 お知らせ

教員学術賞および大学院生学術賞の受賞者を表彰

2020年9月3日の教授会にて、野口学長が2019年度教員学術賞および大学院生学術賞の表彰を行いました。

大学院生学術賞の受賞者は、医科学専攻 神経解剖学の楊燕京先生と循環器病学の康村誠希先生の2名です。教員学術賞の受賞者は、皮膚科学の今井康友講師でした。


野口学長（左）と今井講師

学長（左）と楯を受け取った戴教授
※楊先生の代理

学長（左）と楯を受け取った内藤講師
※康村先生の代理

ささやま イベント

支援グループ 10周年記念式典を挙行
～地域の方と二人三脚で歩んだ10年～

兵庫医科大学ささやま医療センターの支援グループ「ささゆり」が結成10周年を迎えたことを受け、2020年8月26日に病院から感謝の意を込めて「10周年記念式典」を挙行しました。

この支援グループは、丹波篠山市にお住まいの方の有志で構成されており、院内での患者さんのご案内・誘導だけでなく、病院周辺の環境整備や病院イベントの企画などを行っていただいています。

当日の式典では、片山病院長が「ボランティアのみなさんのご活躍があってこそ、病院が活性化しています。10年間にわたるご協力、誠にありがとうございます」と御礼の言葉を述べ、感謝状と記念品を贈呈。「ささゆり」代表の松本様からご挨拶いただいた後、山田看護部長からも御礼の言葉を贈りました。

「ささゆり」のみなさん（前列）と病院のスタッフで記念撮影

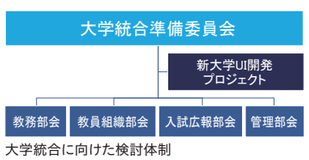
学校法人 お知らせ

新大学誕生をめざし部会やプロジェクトでの検討が本格化

学校法人 兵庫医科大学は、2022年4月※に兵庫医科大学と兵庫医療大学を統合し、新たな医療総合大学の誕生をめざしています。それに向けて、現在は2020年2月に設置した「大学統合準備委員会」を中心に、「教務部会」「教員組織部会」「入試広報部会」「管理部会」の4部会で統合に向けた具体的な議論を進めています。

また、新たな大学に生まれ変わることを機に、大学の根幹となるアイデンティティー（University Identity：UI）を再構築するため、理事長をリーダーとした「新大学UI開発プロジェクト」を結成。2020年8月には、経営陣や教職員、学生、卒業生など様々な関係者に対するインタビュー調査を開始し、9月からは教職員が主体となったワークショップ形式で、新しい大学でめざすべき方向性や価値観などについて議論しています。

※大学の統合計画はあくまで予定。現在文部科学省への申請準備中であり、状況などにより変更する場合あり。



大学統合に向けた検討体制

多数の教職員が参加して行われた、新大学UI開発プロジェクトのワークショップの模様

医科大 医療大 お知らせ

コロナ禍でも“チーム医療演習”を実践
～ソーシャルディスタンスにフェイスシールド着用～

8月27日から9月4日までの7日間、兵庫医科大学と兵庫医療大学の計4学部（医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部）の3年次・4年次生約460名が、西宮キャンパスで「チーム医療演習」に参加しました。学生は学部混成グループに属し、「チーム医療」についての意識を醸成しました。

特に今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講義室への入室前には検温、授業開始前後の手洗いまたは手指消毒を必ず行うよう、各教員からの呼びかけと管理スタッフ増員により、徹底した形で教職員も一丸となって演習に臨みました。

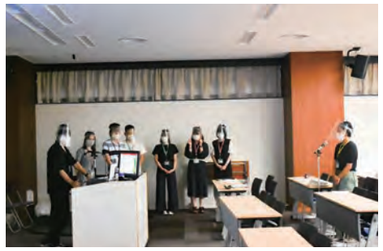
グループ討論

フェイスシールド着用とソーシャルディスタンスは必須

発表に向け、グループメンバーと一緒に一生懸命内容を準備

発表

自チームが考えた正しい処置方法などを発表


質疑応答にも応対

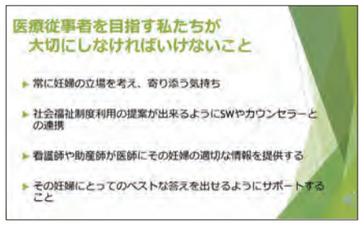
症例解説フィードバック

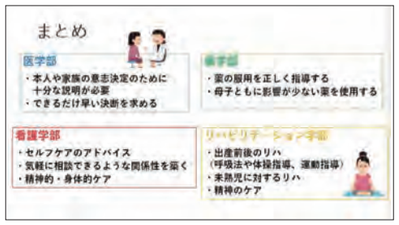
緊張した表情で説明を聞く学生たち

今回は特別オンライン解説も受講

1年次のチーム医療合同チュートリアル（早期臨床体験実習）

1年次のチーム医療合同チュートリアルは9月7日から9月9日まで実施。今年はすべてオンライン上でコミュニケーションを取りながら、4学部合同のグループごとに「PBL（問題基盤型学習）」に臨みました。学生たちは、与えられたシナリオについて討論した後、成果物の報告書を作成し提出しました。





学生が作成した報告書（一部抜粋）

寄贈に対する御礼

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、感染患者数の増加とともに、
医療現場ではマスクや手術用手袋等の物資が不足するなど、厳しい状況が続きましたが、
私たち医療従事者の支援を目的に、連日、企業や団体、個人など各方面の皆様から
たくさんの医療物資、食品、ご寄附などを頂戴いたしました。
病院スタッフはじめ、学校法人兵庫医科大学教職員一同、心より御礼申し上げます。

〈兵庫医科大学病院〉

コストコホールセールジャパン株式会社
株式会社佐々木塗装工業
代表取締役 新川 渉 様
天津医科大学
株式会社シントウ商事
ダイハツ工業株式会社 様
岸田 英治 様
ゴンチャロフ製菓株式会社 様
緑樹会（兵庫医科大学 同窓会） 様
西日本旅客鉄道株式会社
株式会社竹中庭園緑化 様
鹿島建設株式会社 様
株式会社サンアロー
代表取締役社長 矢澤 真徳 様
株式会社青山名城国際医療研究所 様
特定非営利活動法人ジャパンハート 様
旬味千菜 蓮こん 様
西宮鳴尾郵便局 局長 吉澤 さち子 様
久保山 孝幸 様
「夢創造の会」代表世話人 川端 俊次 様
株式会社山中建設
取締役専務 山中 伸亮 様
損害保険ジャパン株式会社
神戸支店長 吉田 正昭 様
ロート製薬株式会社 様
タリーズコーヒージャパン株式会社 様
株式会社久米設計 様
株式会社ハートcare 様
東ソー株式会社 様
日本抗加齢センター株式会社 様
株式会社堀資材 様
ポートピアホテル 様
PSVアイントホーフェン 堂安 律 様
株式会社スリースターコーポレーション 様
小川医理器株式会社 様
兵庫県医師会・兵庫県病院協会 様
トーラク株式会社 様
兵庫県看護協会 様
社団法人韓日経済協会 様
株式会社ファーストリテイリング 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社日立製作所 様
アークビル株式会社 様
日東工器株式会社 様
株式会社日本エスコン 様
株式会社ルゥルゥ商會 様
バイナンスチャリティ財団 様
株式会社大塚製薬工場 様
ほか多数

〈兵庫医科大学ささやま医療センター〉

丹波篠山市医師会 様
新たんば荘 様
西山 良作 様
ランプヤ百貨店 様
丹波焼青年部グループ窯、花いちもんめ 様
丹波篠山市立 篠山小学校 様

※上記はご寄贈いただいた時点の所属先
※ご寄贈いただいた順、お名前公表の許可をいただいた方のみ

2020年9月30日 時点